

● 鵜沼ってどんなところだったの？

鵜沼の地名の由来は、境川と引地川が蛇行氾濫を繰り返し、低地に取り残された沼に鵜(くぐい、即ち白鳥)が飛来した事によるとされています。

鵜沼海岸には東屋と呼ばれる旅館があり、芥川龍之介や武者小路実篤に代表される文化人が滞在し、また避暑地として財界人も多く鵜沼に移り住み、別荘地、高級住宅街という鵜沼ブランドの基礎となりました。

そんな中、地元の子供たちと移り住む子供の教育にと、鵜沼小学校や鵜沼中学校、そして我が校である鵜洋小学校も62年前に建設されました。

● 埋め立てと不法投棄を乗り越えて

時代と共に鵜沼の多くの池は田畑、宅地として埋め立てられ、残された池には、建築廃材や家庭ゴミが捨てられるようになりまし。そこで、池を残し保全しようという運動が起こり、はず池の自然を愛する会、桜小路公園愛護会という地域住民によるボランティア団体が立ち上がり、藤沢市への働きかけや有志による清掃活動が実を結び、現在3つのはず池(1つは個人宅内に)が残されています。また、名前の由来ともなった蓮も年々増え、夏には大輪が咲き誇り、子供たちの遊び場、また憩いの場として風情あるはず池となっています。

● はず池に異変!! アゾラの襲来

はず池に昨年より異変が起きている事をご存知でしょうか。昨年の夏、桜小路公園内の第二はず池に緑色の小さな浮き草がちらほら浮き出しました。日を追うごとに増え、池一面を覆い尽くし、飽和状態となった秋、紅葉したように池が真っ赤になりました。びっくりした住民が藤沢市に通報し、調べたところ特定外来種のアゾラ・クリスタータという浮き草である事が判明しました。

● アゾラ・クリスタータって何？

アゾラは水生のシダ植物で、水田や水路など止水域に浮遊して生育する多年草です。農薬を使わない稲作の「アイガモ農法」で用いられる在来種であるアカウキクサとオオアカウキクサは絶滅危惧種に指定され、外来生物法に指定された中米産のアゾラ・クリスタータは、在来種との競合や駆逐、遺伝的攪乱の危険性が高いおそれがあるため、特定外来種に指定され、持ち帰って育てたり、他の湖沼や河川に放つ事は禁止されています。

またアゾラ・クリスタータは地球温暖化の影響で全国各地の池や沼、城のお堀などに拡大し、問題になっています。



直径1cmほどのアゾラ

● アゾラの影響

昨年の10月、藤沢市公園みどり課と桜小路公園愛護会やはず池の自然を愛する会、地域の住民らで駆除をする事となり、一日総出で水揚げを行いました。

胸まである長靴を履いて、池の中に入り大変な思いをして取り除いた量は、池全体に広がるアゾラの数分の一でした。その後もプチプチと音をたてながら繁殖を続け、ザリガニを釣りに来ていた子どもたちも、アゾラのために思うように釣りが出来ず、次第に遊びに来る子どもも減ってきてしまいました。それと同じくして、アゾラが水面を覆い水中の酸素濃度が低下した結果、フナやコイが死にはじめ、日光が届かなくなった水中では植物プランクトンや動物プランクトンが減少、



アゾラに埋めつくされたはず池 それらを餌とする藤沢メダカやクチボソなどの小魚や水質自体にも変化をもたらす事となって来まし。

また、はず池に浮いていたホテイアオイを鵜洋小のひょうたん池に入れた際、くっついてた胞子からアゾラが増え始め、昨年の秋にはあちこち浮いていました。その後、飼育委員を中心とする清掃活動や冬の寒さで枯れて、今年は今のところ見あたりません。

●アゾラの駆除の切っ掛けと駆除作業

子どもたちを見守る、子どもたちの遊び場も含め環境を保全するという主旨で、昨年の10月末からアゾラの駆除活動に加わりました。アゾラを水揚げする中、空き缶やペットボトル、ビニール袋、釣り糸やタバコなど多くのゴミが池の中に廃棄されており、分別廃棄も大変でした。11月末からKFPの仲間も駆除活動に加わり、作業スピードは数倍となり、今年1月末には第二はず池からアゾラの姿は見あたらなくなりました。詳細は下記ブログをご覧ください。

★ブログ“はず池アゾラ駆除日記”

はず池に発生したアゾラ・グリスタータの駆除奮闘記です。 <http://blogs.yahoo.co.jp/tsukuru333.jp>

●なぜはず池にアゾラが？ 根元の駆除開始

忽然と現れたアゾラはどこから来たのか不思議に思い、聞き取り調査をしたところ、4年前から鵜沼高校側の第一はず池に赤い物が浮いていたと言う事が分かりました。当時は赤いガマの穂が浮いているのだらうと、気にしていなかったそうです。それはまさしくアゾラだったのです。なぜ第一はず池に入ったのかは不明ですが、両方の池を往き来する鴨が、第二はず池に持ち込んだものと推測しています。今年2月からは根元となっている第一はず池の駆除作業を三校のKFPと近隣住民で行い、約4トンもアゾラやヨシやガマ、ゴミを取り除きました。

●アゾラの復活 恐るべき繁殖力

ほぼ完全に取り尽くしたと思われた第二はず池のアゾラですが、今年の4月中旬に再び現れ、少しずつ駆除を行っていましたが、取るより増える方が早く、ついには胞子を飛ばし、6月に入り爆発的に増殖。6月中旬には池全面に広がってしまいました。現在KFPを中心に有志による合同駆除を毎週土曜・日曜の早朝6時から行っています。

●子供たちや地域住民も

駆除作業中、多くの子供達が興味深げに「おじさん何やってるの。」「どうして取っているの。」と声を掛けてくれます。「この草が一杯になると、お魚が死んでしまったり、ザリガニ釣りが出来なくなるんだよ。」と答えると、「俺も手伝うよ。」「私達も一緒に取っていい。」と手伝ってくれます。また、住民の方や蓮の花を見に来た観光客も手伝ってくれるようになりました。頼もしく温かい気持ちがとてもありがたいです。

●子供たちの思いが歌に

アゾラははず池にとっては困った植物ですが、駆除を行う中、世代間を越えて地域の自然を愛護する活動に繋がってきました。先日、お手伝いしてくれた鵜洋小の5,6年生の女の子が作詞してくれました。曲も募集中です。

『みんなの力ですくおう！』

はず池をすくおう！ 地球をすくおう！

動物をすくおう！ みんなの力ですくおう！

きみといっしょに力をあわせて きっとすくえるはず～

人は生まれ変わるから たくさんいいことをしよう

みんなの力ですくおう～！

作詞:りこ、ゆうき、みお



アゾラを網ですくい取っている鵜洋の児童

●周辺の池に拡げないために!!

はず池で使った網には目に見えないアゾラの胞子が付いていますので良く洗って下さい。魚やザリガニを持ち帰る際、バケツや水槽内の水やアゾラの取り扱いにご注意下さい。また、池の中に入らない下さい。

◆事故を防ごう

夏休みに入ると、夕方暗くなるのがどんどん早くなります。たそがれ時は、車から人が見えにくくなるので、交通事故の可能性が高まります。また、不審者に気をつけることも大切です。以下のことを心がけてください。

- ・17時の夕焼け子やけのチャイム目安に暗くなる前に帰る、帰らせる。
- ・暗いときに行動するときは、明るい服を着たりライトをつけたりして目立つようにする。
- ・必ず行き先を伝えてから出掛け、普段から一人で行動しない。家族や友だちと一緒に行動する。

◆水の事故を防ごう

夏休みに入ると、海岸や川で遊ぶ機会が増えるとともに、水難事故も増えます。海では、離岸流(りがりゅう)といって、川よりも早く沖に向かう流れがあります。離岸流につかまると、泳ぎの上手な人でも岸に戻る事が難しくなります。鵜沼地区では2年前の夏に市内中学生が引地川河口で事故にあい、大変残念な結果になりました。また、着衣時での事故が多発しています。以下のことを心がけてください。

- ・遊泳は、海水浴場で行う。禁止された場所では絶対しない。
- ・水の近くで遊ぶときは、大人と一緒に行動する。子ども同士だけでは絶対遊ばない、遊ばせない。
- ・もし、間違っって水の中に落ちたら、大声で助けを求めろ。とにかく大きな声で、「たすけてー！」と叫びつづける。